



特 268
247

特268-247
1200501125958

FÜHRERHAUPTQUARTIER

Der Führer und Oberste Befehlshaber der Wehrmacht mit dem Oberbefehlshaber des Heeres Generalfeldmarschall von Brauchitsch — so wie der Führer immer entscheidenden Einfluß auf die Gesamt-Operationen ausgeübt hat.

ヒトラー 總統の本營

總統兼國防軍最高指揮官ヒトラー陸軍最高指揮官ブラウイツチ元帥と停戦に決断を下した！



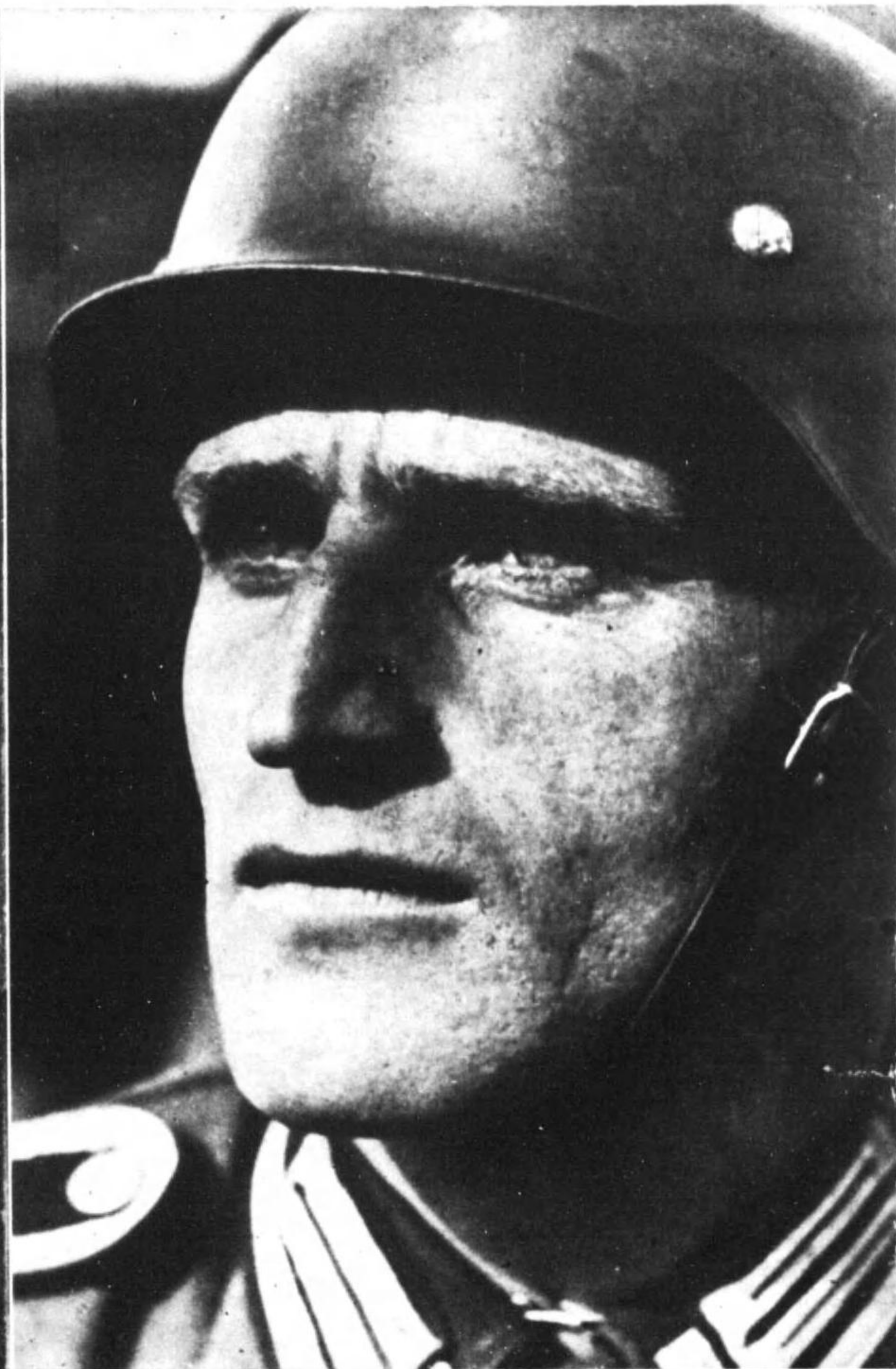
始



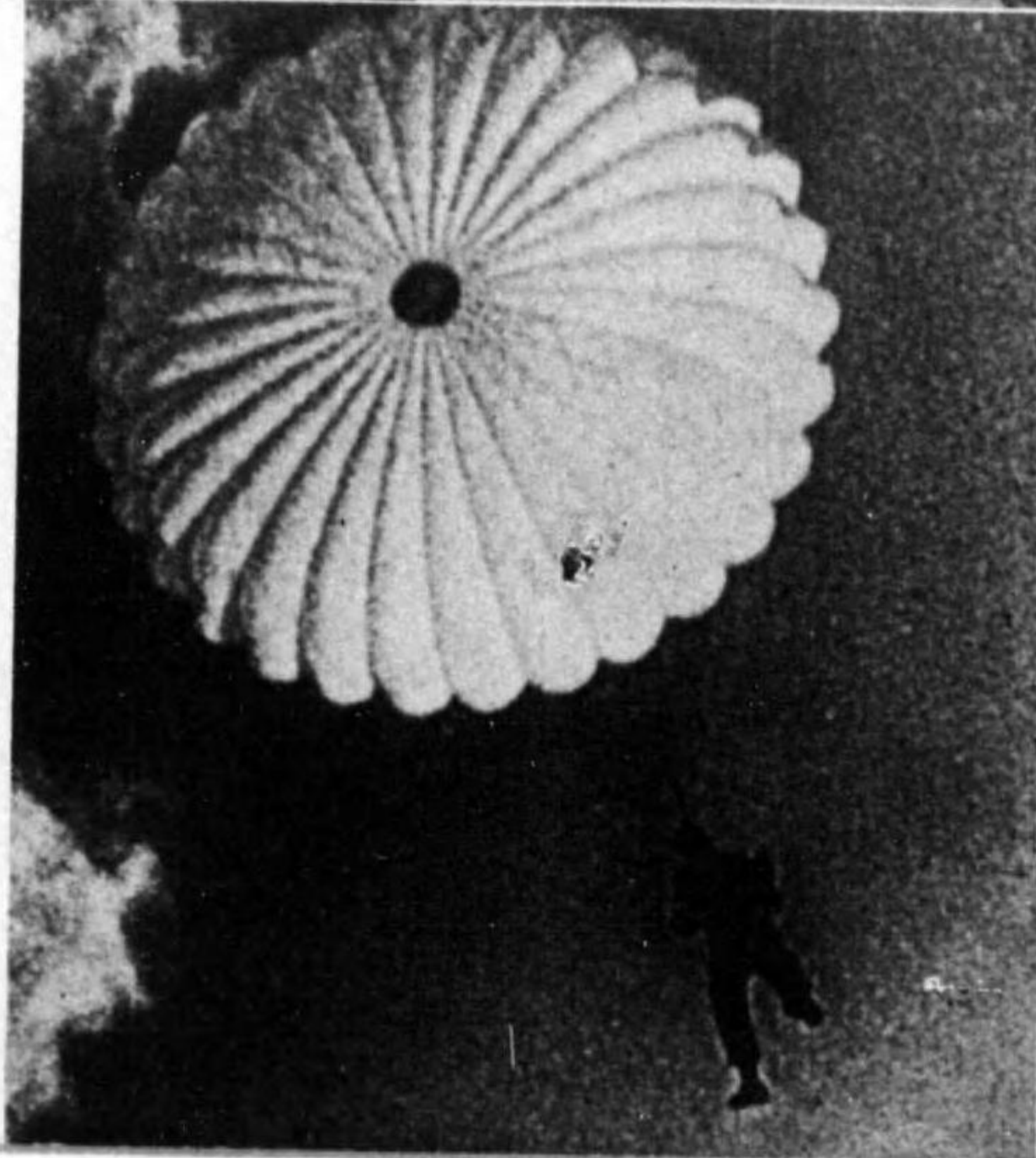
英佛軍・純逸國境=迫る3



獨逸南西端ルール地方は、重工業地帯炭礦地帯であつて、生命線とも稱すべき重要地帯である。英佛聯合軍はルールに集結し一舉にルール地方を襲はんと企ててゐた。今こそ獨逸軍の腹起すべき秋が来たのである。



獨逸國防司令部發表(五月十日) ベルギー及びオランダ地區に展開し、ルール地方を脅かさんとせし敵に對し五月十日夜明我が軍は西部國境の廣汎にわたる戰線にて攻撃を開始せり。同時に空軍は敵の飛行場を空襲大戦果を納め地上部隊の戰闘を援助し密接なる連絡を保てり。五時三十分我が軍はオランダ、リユクセンプルク及びベルギー國境を越へたり。



獨逸國防軍司令部發表 五月拾壹日
 我が西部軍はオランダ、ベルギー、及びリムクセンブルク國境を
 破へ、オランダ及びベルギーの到る處で國境部隊を潰走せしめ、橋
 梁破壊に有ゆる彈幕射撃を受けしにも拘らず前進攻撃せり。落下傘
 部隊地上部隊は各所に投下せられ、各々警備の任に就けり。

す八侵へ蘭和が空軍独



下級部隊を降下せしめ、砲
梁を確保した。地上部隊と
遭遇した後下級部隊は共に
猛攻を続け、遂にロツテル
ダムは陥落した。



獨逸軍侵入に對する和蘭
唯一の防衛法は洪水戦術で
あった。國內を流れる無數
の河によつて、この舉に出
でんとするや、獨逸軍は空
からロツテルダム地方に降



Luttich

Fort Eben Emael

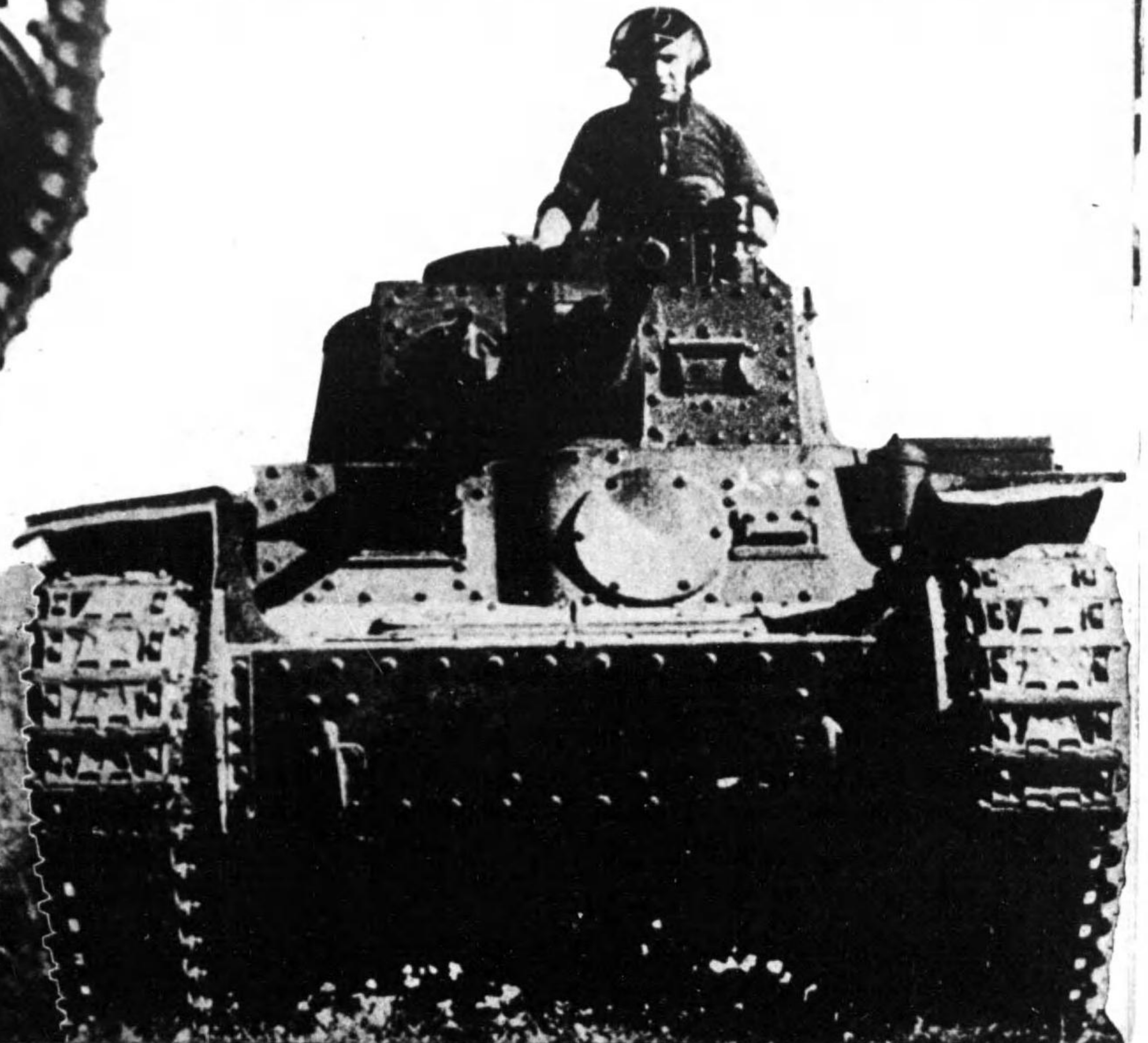


堅壁エーベン・メー・ル陥落



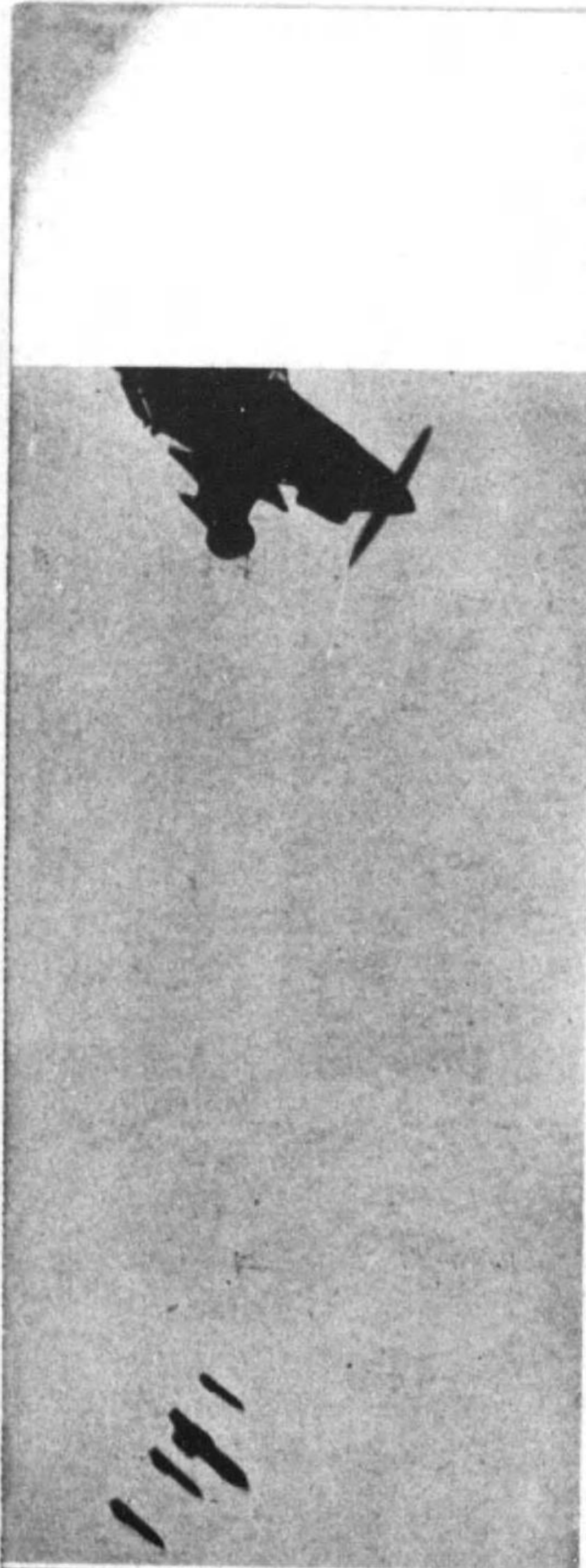
白耳義と獨逸の國境近くリュツティツヒには、エーベン・エ
 メール保壁と稱される最も堅固な要塞が築かれてある。二十二
 の部分よりなり、四十門の大砲、一千二百人の守備兵を擁し、
 前面には深い運河が掘られて、その前方にマース河が横たはつ
 て、この地點の攻撃は最も困難とされてゐた。しかし獨逸軍司
 令部は左の如く發表した。

我が軍は西部よりリュツティツヒを又一方北部のマース河
 より西部に向つて前進し、リュツティツヒ市に侵入せり。
 城砦の上には五月十三日以来獨逸國旗が懸へり。
 即ち世界の驚異の視線をあつめた堅壁突破が完成したのであ
 る。



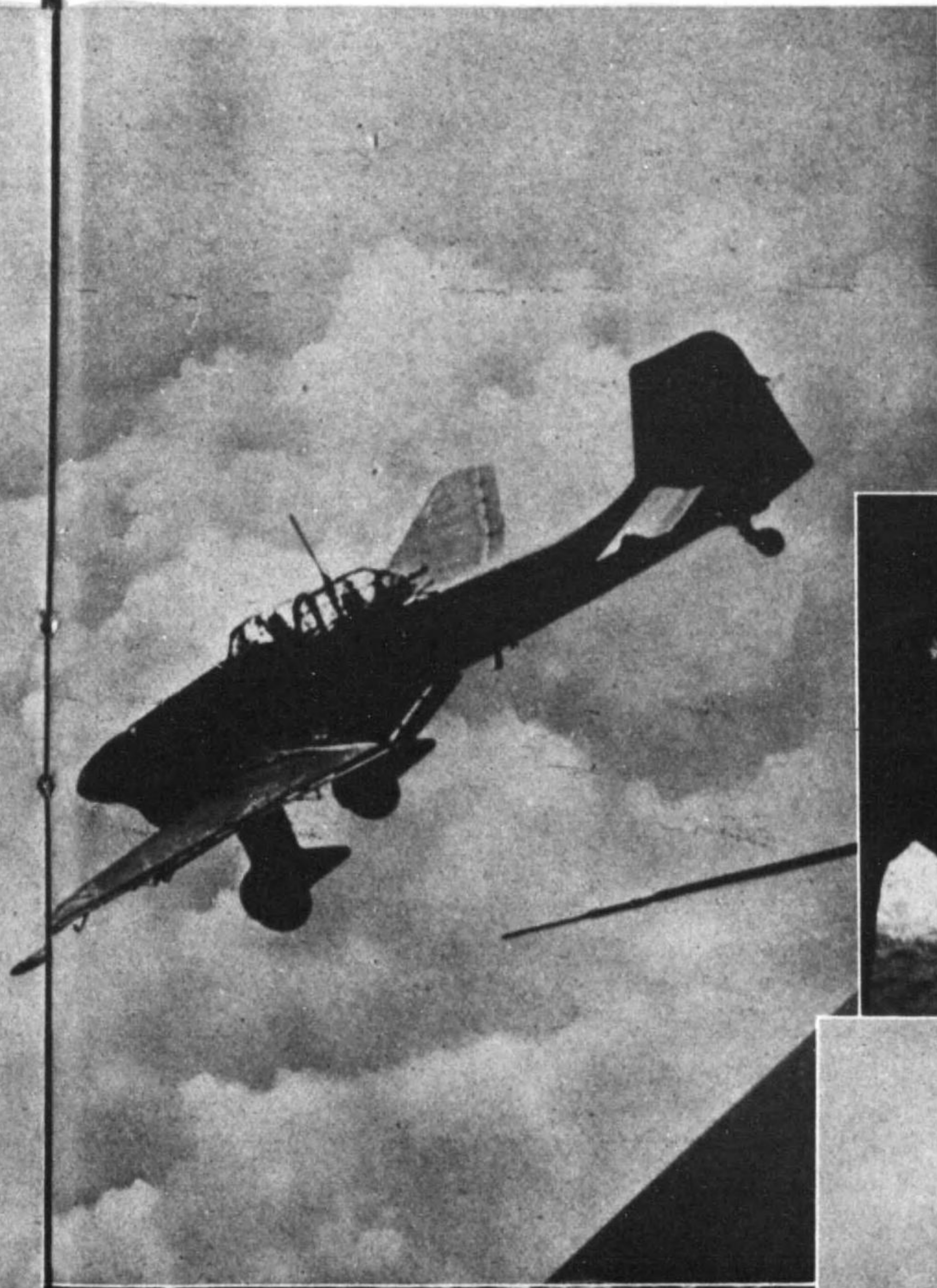
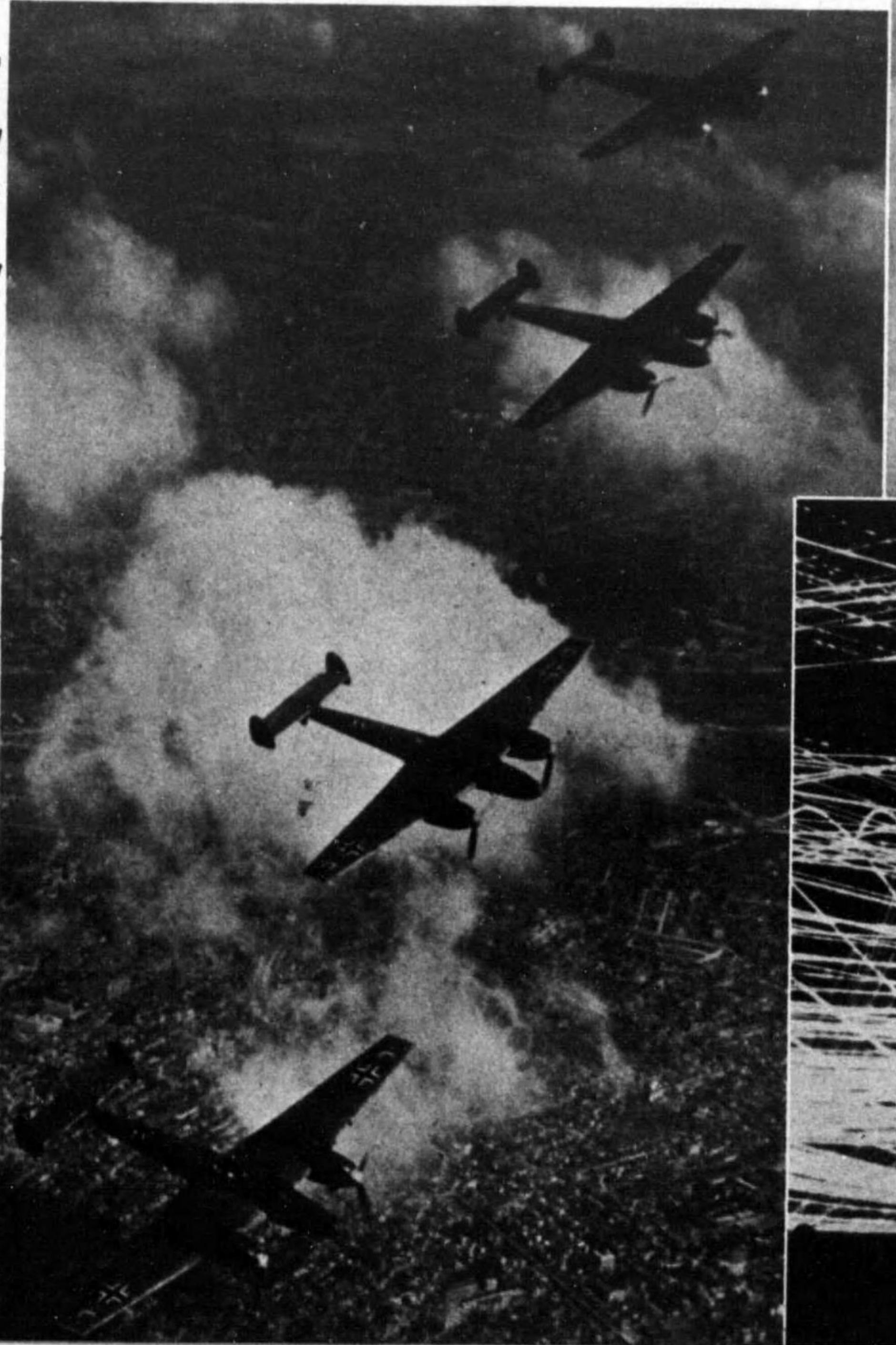
五月十五日
 前大戦に於て血戦幾度か繰返したベルギー平野に、再び獨逸軍戦車と、遙々巴里から北上した佛蘭西軍戦車と最初の遭遇戦が展開された。獨逸軍の對戦車砲は佛蘭西軍戦車の七十對裝甲を撃破し、次第に壓迫を續け、遂に數百の佛戰車を挫折せしめた。

獨逸軍司令部發表
 我が部隊はナムールの南西、マース河の西岸にて大戦果を収め、繰返し佛軍戦車を攻撃せり、セダンの南方にて重戦車を以てする佛軍の反撃を撃退せり。



征は驚荒逸独るな猛勇

空を完之也リノ



進軍



1. Heberl leiwit

Marschtempo

wenn deutsche Soldaten nur
Daen
sehen, dann soll sie kein Tau sei weiter auf.
fal-ten die Wärfel des Min-ge, dann fal-ten die Fah-ven des
Sie ges-ten stürmen die Reere vor-auf.
Krieg geht ü-ber die Er-de, Viel Hunderthausend
Mann. Die ziehen zu Fuß und zu Pferd-er die
Panzer draussen voran. Das kann nur Recht, nur Schaf-er von
Hedwoll drauf zum Meer, wir tau und erp zu fal-er die
Teil schick genat in gunt Herr-, in Reichthum und in-gunt Herr-

2. Heberl Windt

Ma-zichte op

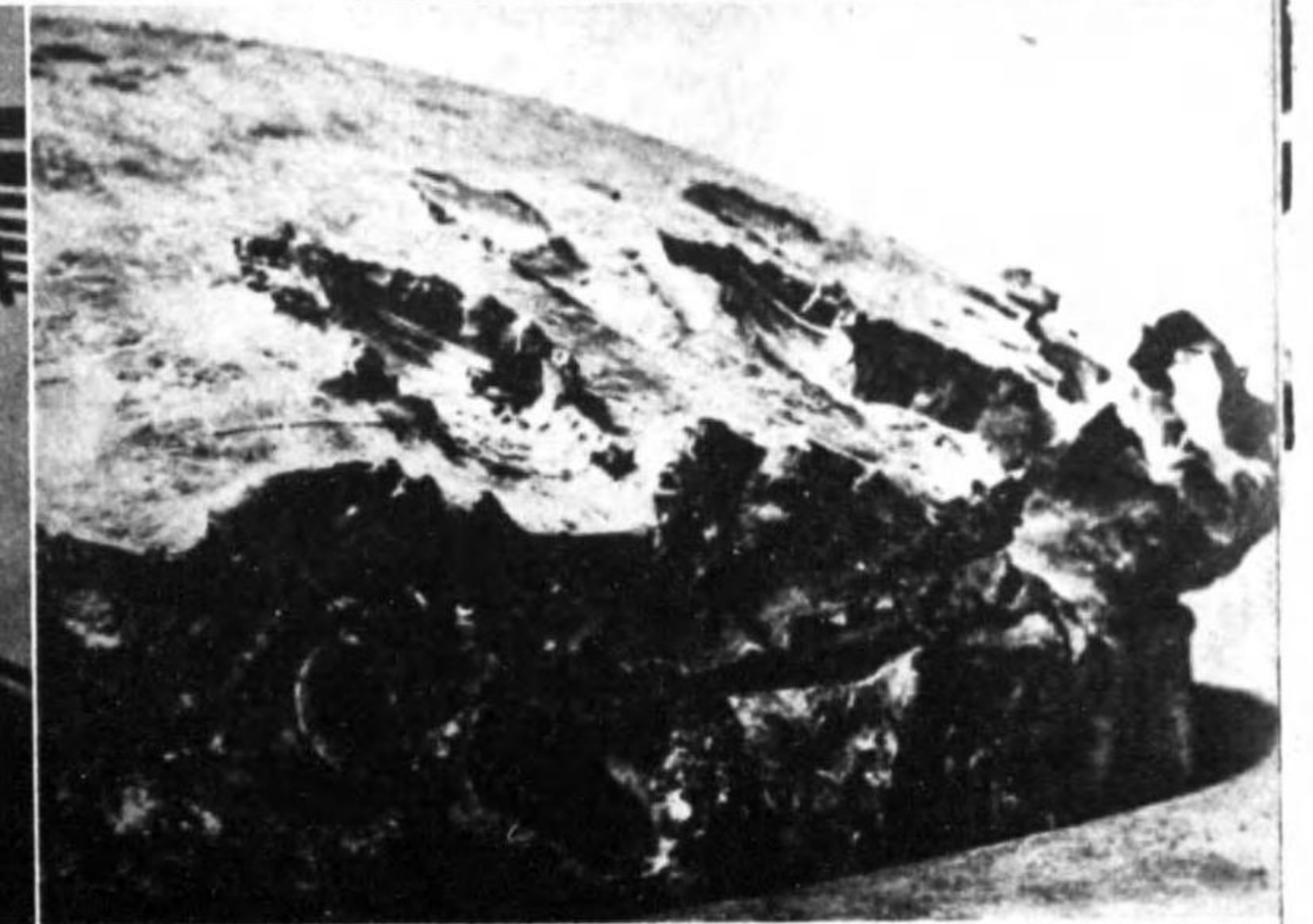
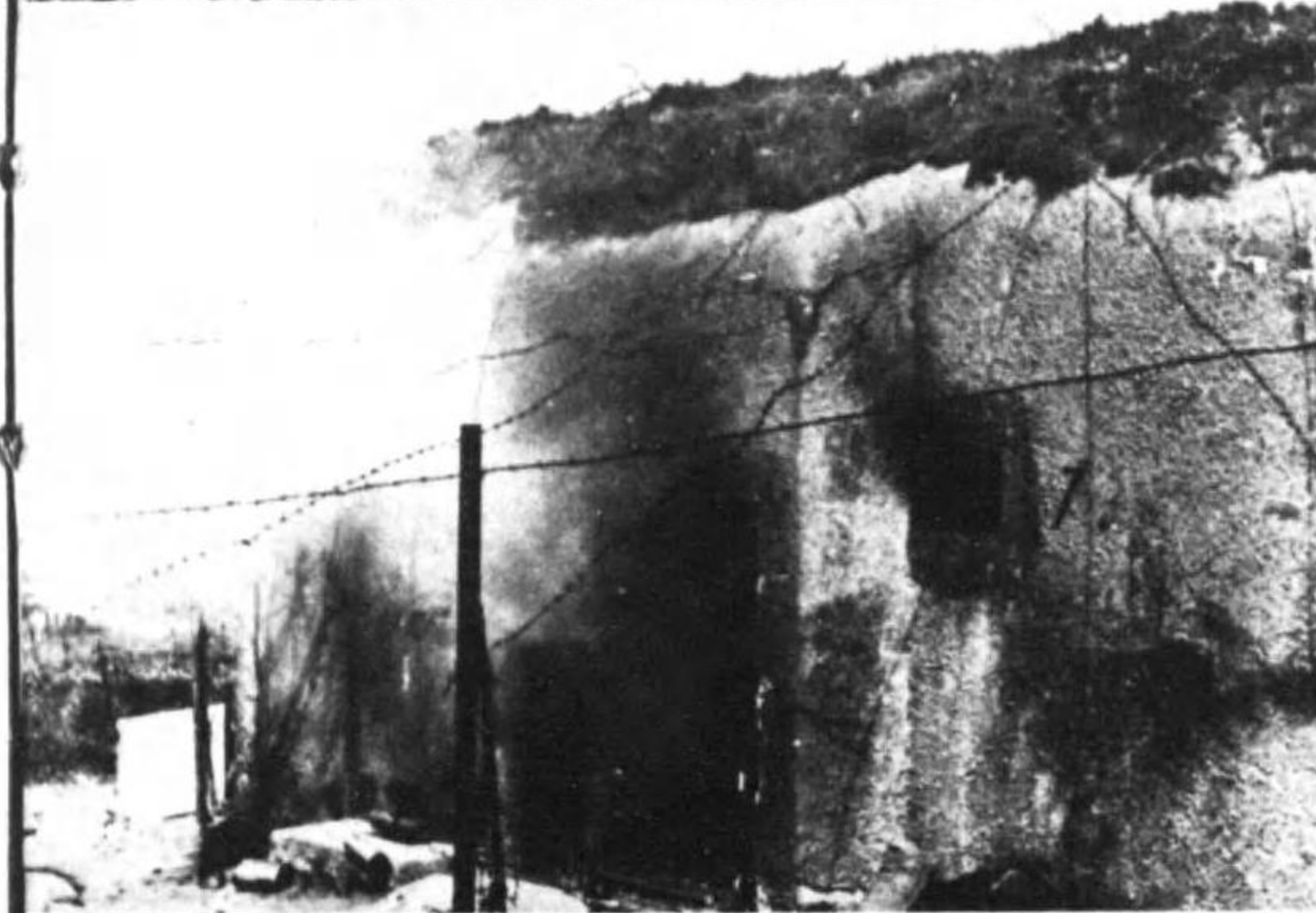
1) B. den U-fer der Diefen In-gen kandel Hander-reit,
2) Als die Pf-schickende ablag, Le-ge-let-er und die's nach!
3) Als die An-ke schickende fal, Le-ge-let-er die's nach Herr.

1) ge-ten nach in der Diefen In-gen kandel Hander-reit,
2) Als die Pf-schickende ablag, Le-ge-let-er und die's nach!
3) Als die An-ke schickende fal, Le-ge-let-er die's nach Herr.

1-2) an-ge Li-ge-let-er, ge-ten nach Hander-reit,
1-3) In-ge, in der Diefen In-gen kandel Hander-reit,
1-3) ge-ten nach in der Diefen In-gen kandel Hander-reit,
1-3) ge-ten nach in der Diefen In-gen kandel Hander-reit,
1-3) ge-ten nach in der Diefen In-gen kandel Hander-reit,
1-3) ge-ten nach in der Diefen In-gen kandel Hander-reit,



マジノ線は斯く突破セリ!







Hundert Mann und Lieselotte

Von einem Infanteristen in der Bretagne
An der Küste der Bretagne
Liegen hundert Mann bereit
Gestern noch in der Champagne,
Morgen irgendwo ganz weit.

Und sie singen „Lieselotte“,
Singen es aus vollen Kehlen,
In der ersten, zweiten Rotte,
Und die dritte will nicht fehlen!
Alle Mann, jetzt tritt gefaßt!
Lieselotte, aufgepaßt!
Einer ist bestimmt noch frei.
Morgen ist der Krieg vorbei.
Lieselotte, Lieselotte!

Als die Abschiedsstunde schlug,
Lieselotte, weißt du's noch?
Jeder nochmals nach dir frug.
Hundert Mann, die Köpfe hoch!

Und sie singen „Lieselotte“.

Als der erste Schuß dann fiel,
Lieselotte, klopft das Herz.
Jeder dir gehören will,
Hundert Mann in Grau und Erz.

Und sie singen „Lieselotte“

Als der Abend kam ins Land,
Lieselotte, lag ein Grab
An dem Weg ins Vaterland.
Neunundneunzig — Helme ab!

Und sie singen „Lieselotte“

Hundert waren's, Lieselotte.
In der Schlacht wird scharf geschossen.
Einen traf es in der Rotte.
Hat für dich sein Blut vergossen

Und sie singen „Lieselotte“

百人とリーゼロッテ
ブルターニュで歩兵が云つた
百人男が持つてゐる
昨日シヤンパーニュで
明日は知らぬが遠くの方
彼等は歌ふリーゼロッテ
喉もさげよと 一隊も
二隊、三隊 負けてない
みんなしつかり歩調とれ
リーゼロッテ氣をつけろ
誰か君のところへ行くだらう
明日で戦ひ終るらし
リーゼロッテ、リーゼロッテ
別れの時が来たときに
リーゼロッテ、覚えてる?
みんなが君を知りたがる

百人の男よがんばれよ
彼等は歌ふリーゼロッテ
ただ一發で斃れるよ
胸のときめき早鐘だ
みんなが君を知りたがる
百人の若武者鼠色
彼等は歌ふリーゼロッテ
夜の幕が下りた時
お墓があつたよリーゼロッテ
名譽の勇士のその墓に
九十九人が 帽を脱る
彼等は歌ふリーゼロッテ
リーゼロッテ
百人の男はさうだつた
誰も勇壯無比だつた
敵の砲弾をうけたとき
祖國のために血を流す
彼等は歌ふリーゼロッテ



進軍の歌

ヘルバート・グライント作曲

Auf der Straße des Sieges

Marschlied

Wenn deutsche Soldaten marschieren,
dann hält sie kein Teufel mehr auf.
Dann fallen die Würfel des Krieges,
dann flattern die Fahnen des Sieges
dem stürmenden Heere voraus!

Der Krieg geht über die Erde,
Viel hunderttausend Mann
zu Fuß und zu Pferde,
Die Panzer brausen voran
Zur Marne, zur Somme, zur Schelde,
vom Westwall hinauf bis zum Meer
viel tausende ziehen zu Felde
in Deutschlands gewaltigem Heer

Wenn deutsche Soldaten marschieren

Der Feind hat ein Bollwerk geschaffen
und Bunker um Bunker gebaut.
Wir haben der Kraft uns'rer Waffen
und dem Mut uns'rer Herzen vertraut.
Im Feuer der deutschen Granaten
kam Bunker um Bunker zu Fall,
im Angriff der deutschen Soldaten
zerbrach der gewaltige Wall.

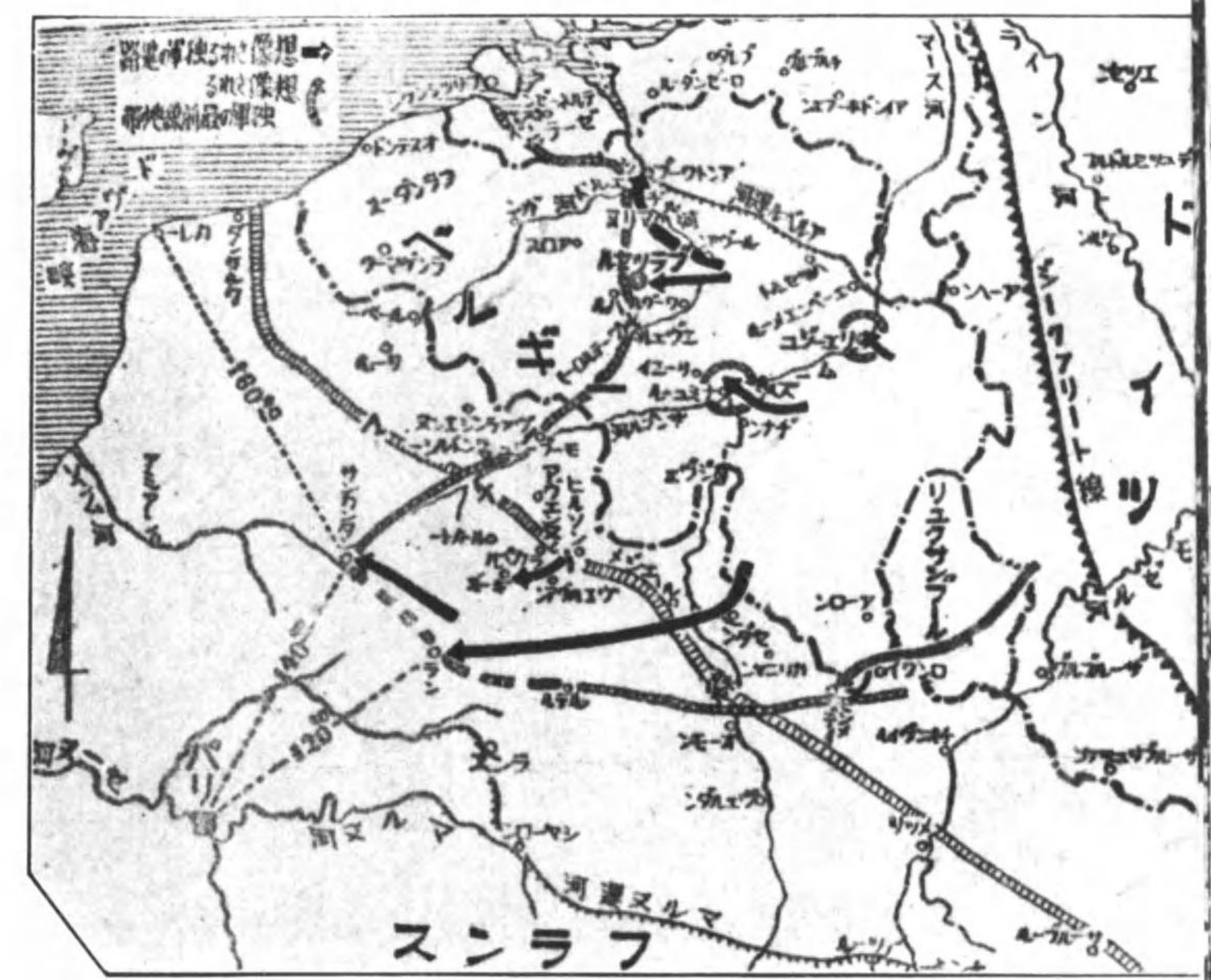
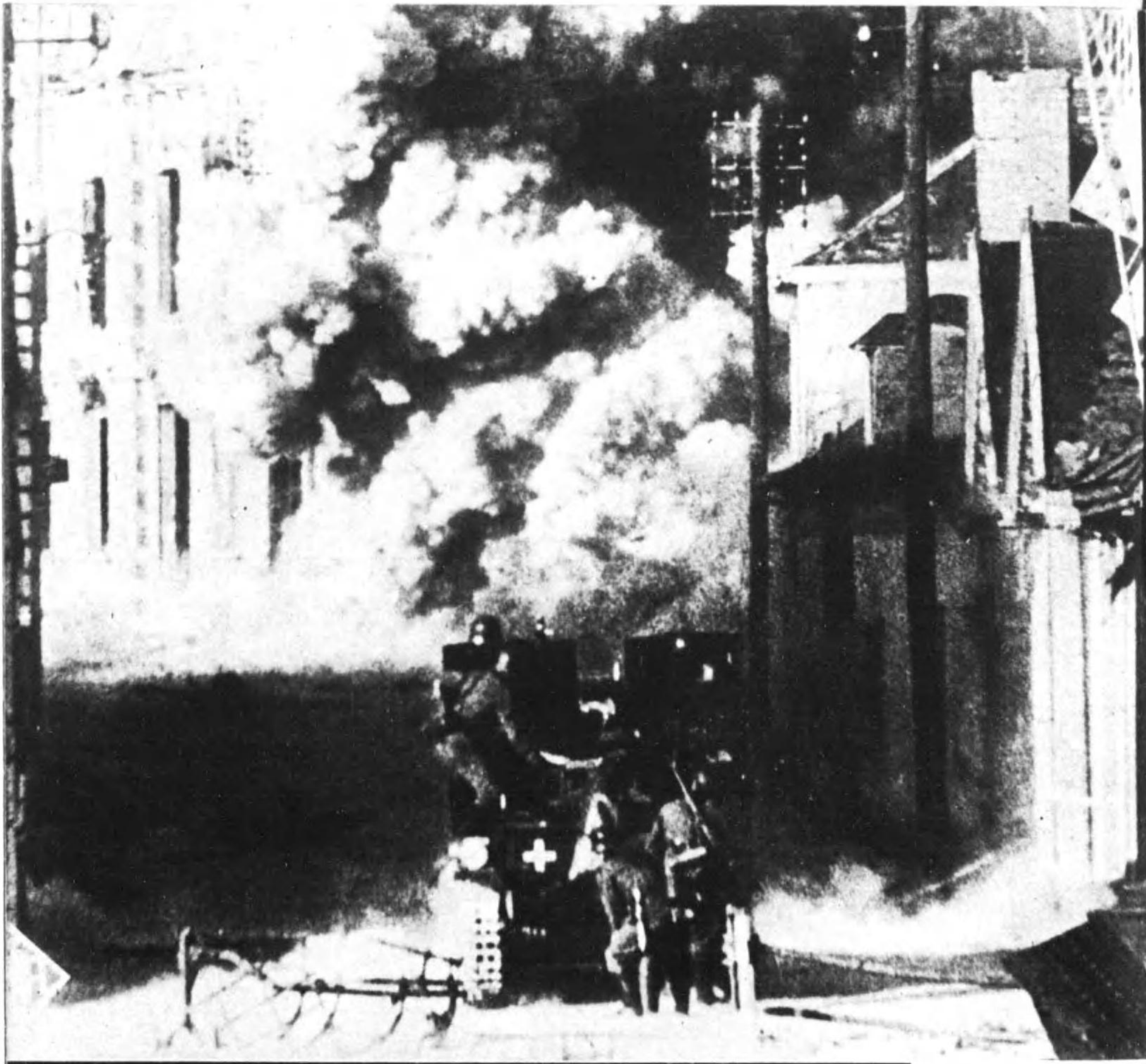
Wenn deutsche Soldaten marschieren

Der Krieg geht über die Felder,
die Straßen landauf und landab.
Da liegt in dem Dämmer der Wälder
so manches Soldatengrab.
Ihr Toten, ihr habt es begonnen,
wir haben's zum Ende gebracht:
Wir haben gewagt und gewonnen
die größte Vernichtungsschlacht

Wenn deutsche Soldaten marschieren,
dann hält sie kein Teufel mehr auf.
Dann fallen die Würfel des Krieges;
dann steigt mit den Fahnen des Sieges
die Weltenwende herauf!

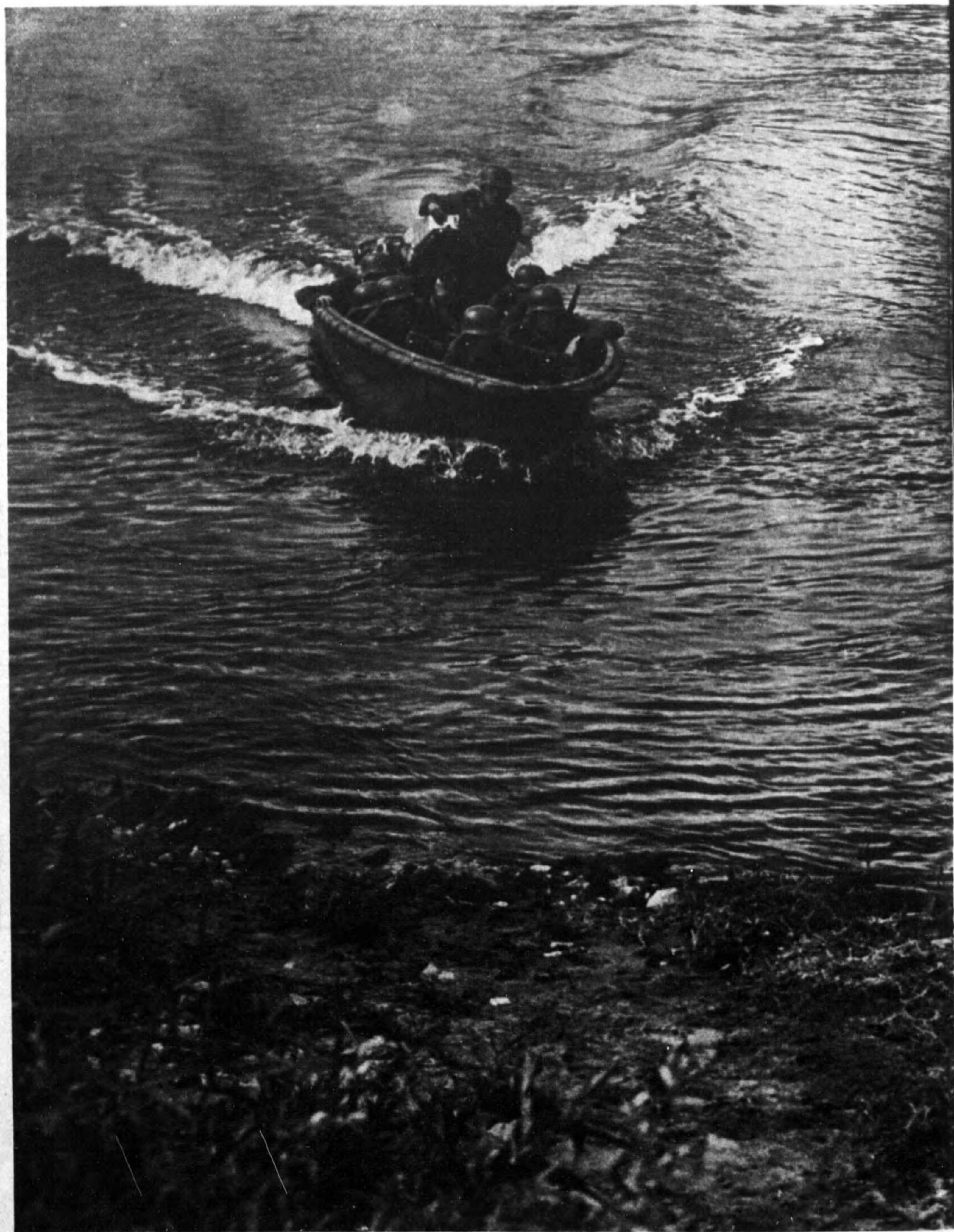
勝利の大道を
獨逸の兵は進み征く
悪魔もこれを止められない
戦ふ骸子がふられたら
突撃隊の眞先を
勝利の旗はひらめき進む
地は戦ひで掩はれる
幾十萬の男子達
馬で、徒歩で進み行く
戦車は唸つて轟進す
マルヌへ、ロリンムへ、シエルトへ
數十萬の男たち戦ひの庭へいざ征かん
強き護國のつわものよ
獨逸の兵が進み征く
敵は堡壘を守らんか
幾百千のトーチカも
吾等はずよき武器を持つ

胸の勇氣は百倍だ
吾等の砲は火を吐いて
次々トーチカ陥ちて行く
獨逸の兵の攻撃に
強固な防壁砕け行く
獨逸の兵は進み征く
野は戦ひで掩はれる
街をば進み、街を抜け
森の木蔭に
無数の兵士の墓がある
彼等は戦ひ亡びたり
吾等は戦ひ捷ちゆくぞ
吾等は闘ひ進み征く
驚天動地の戦ひだ
獨逸の兵は進み征く
悪魔もこれを止められない
戦ふ骸子がふられたら
勝利の旗ともろ共に
世界に光を輝かさん



聖カニタン
危シ





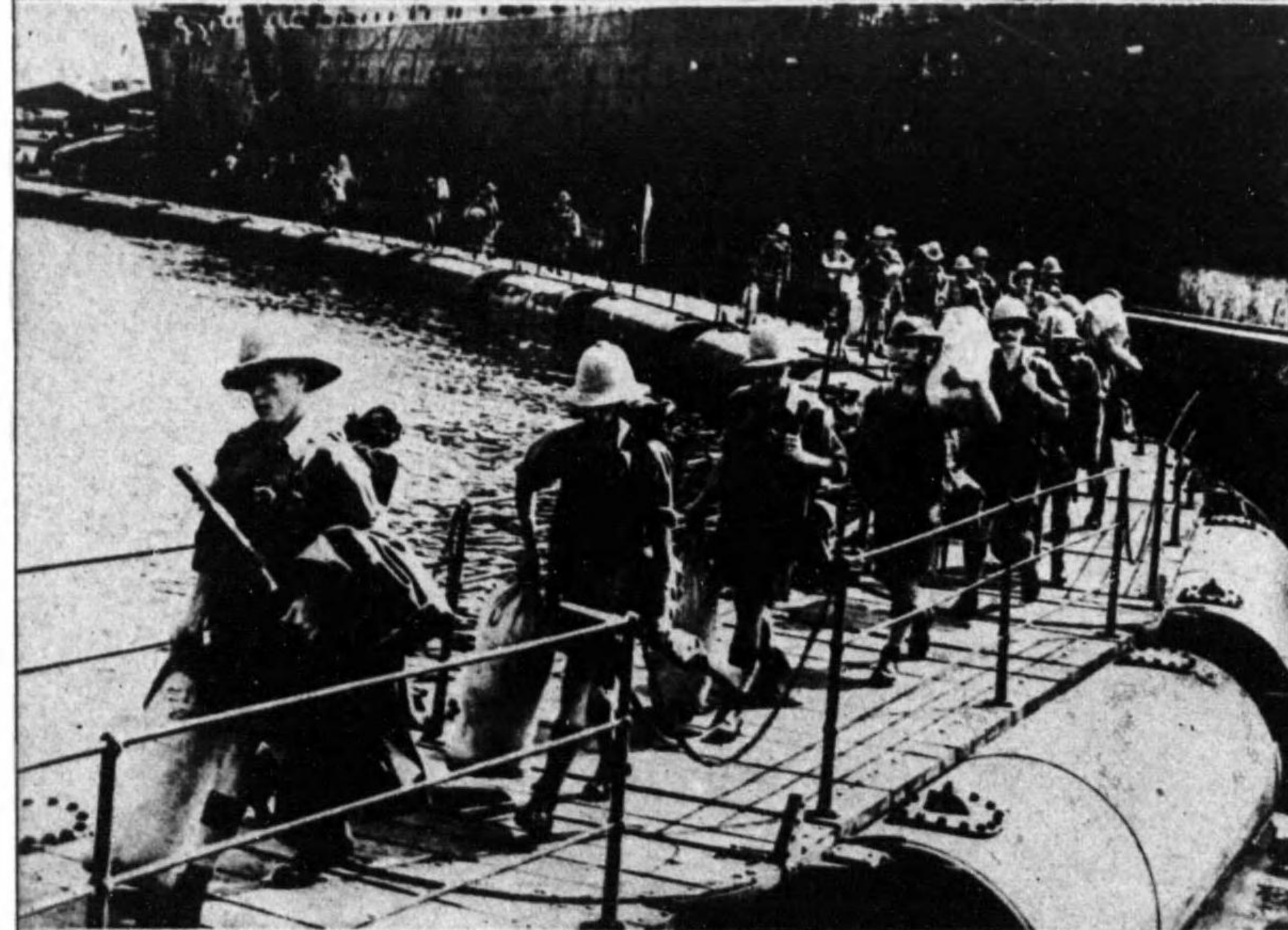
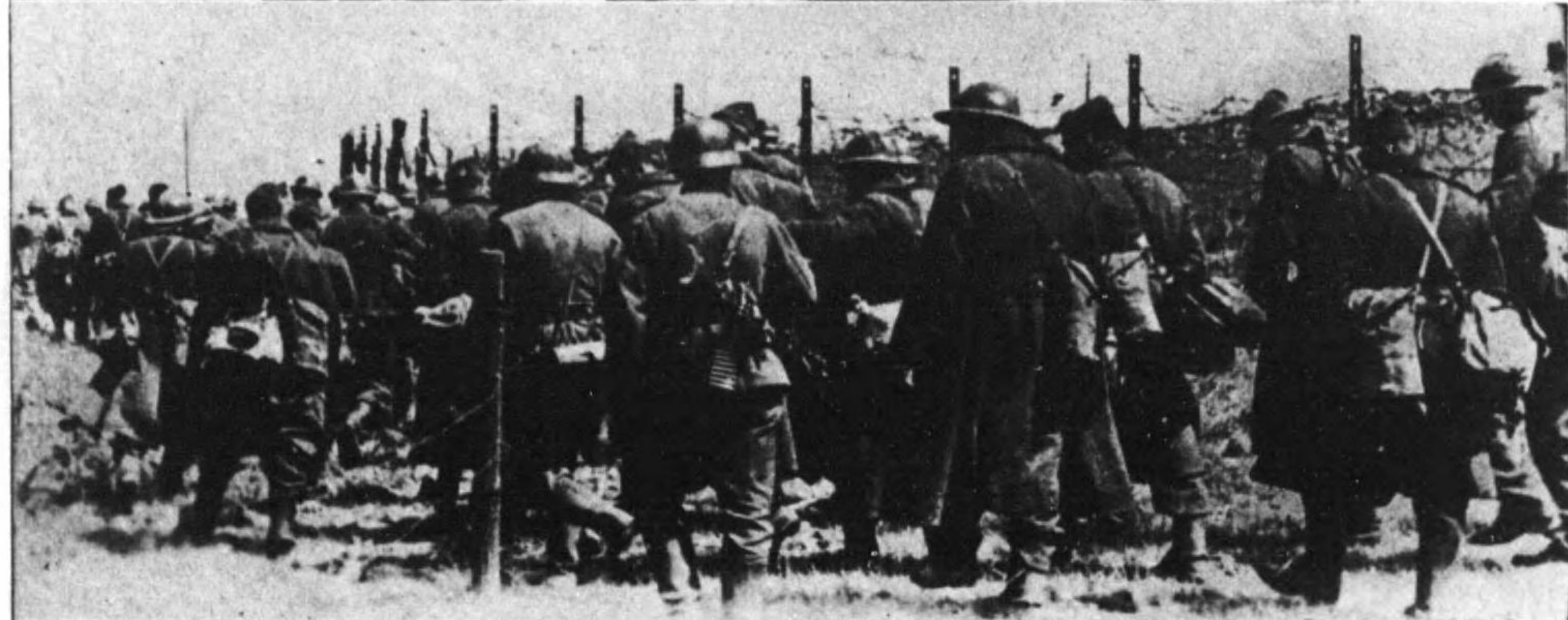
味方の機銃射撃を待つて、快速艇は十字砲火の下を渡河する。操縦者と兵との息がびたりと合はねばならない。幾多の河も獨逸軍の前には妨害とならなかつた。



敵前渡河



英佛軍敗退す



アミアン近し



ソム河をはさんで手榴弾投下



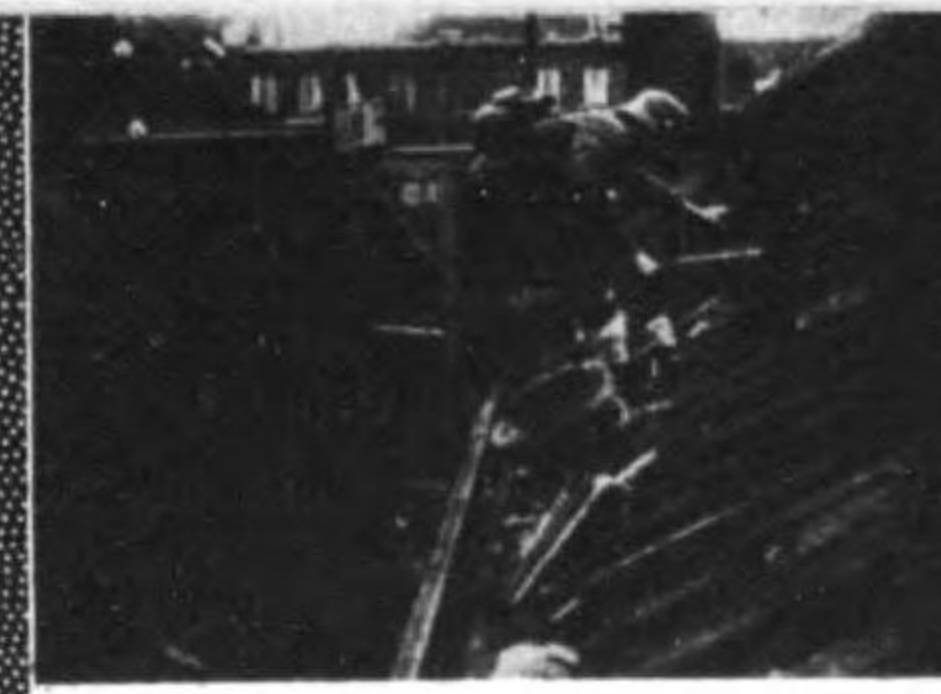
前をさえぎるものはなし



巴里近し



英佛海峡に於ける獨英機の巴戦



ロツテルダム



マース河南岸タンク戦の後



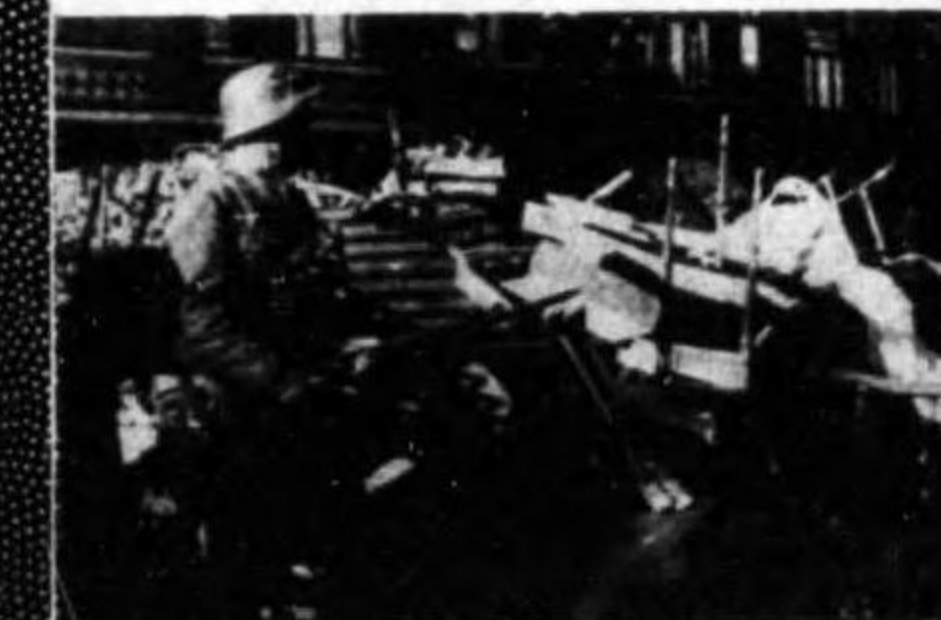
ルアンは炎に包まる



なほ進撃は続く



獨逸重戦車



映画
勝利の歴史
より



街を陥して次の戦場へ



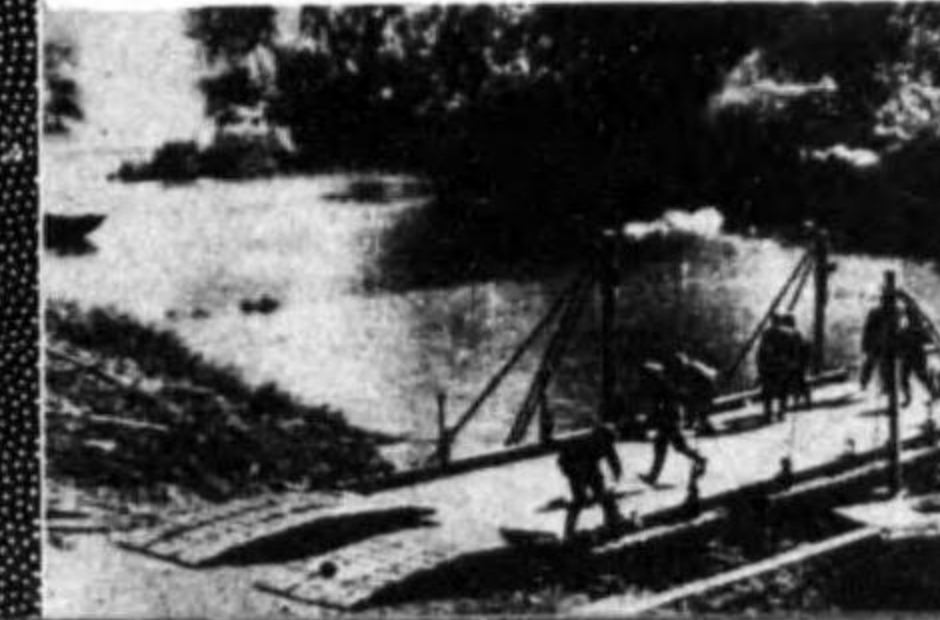
ライン上流敵前渡河



ライン河下流域快走艇敵前渡河



架橋作業中も敵砲弾が附近へ

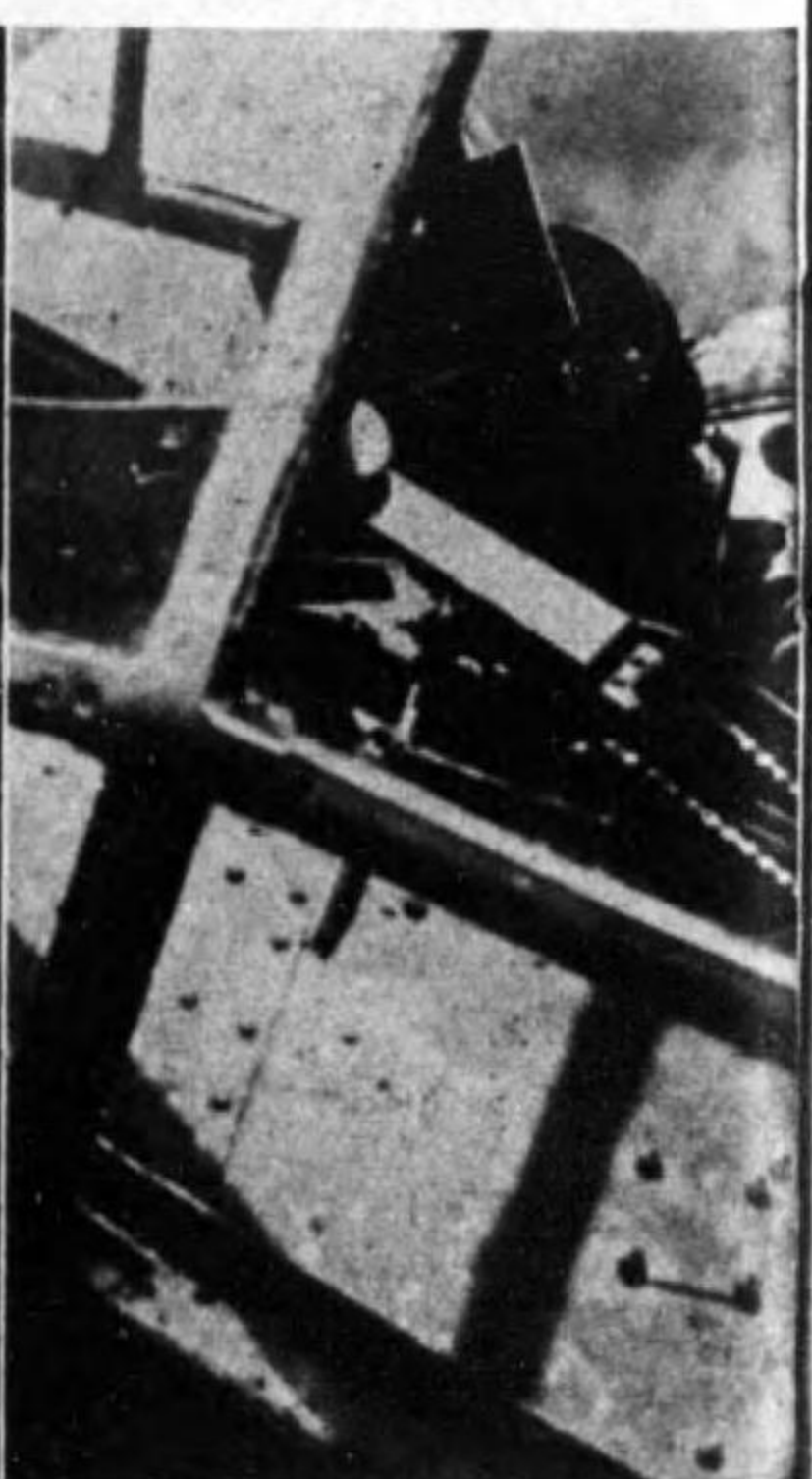
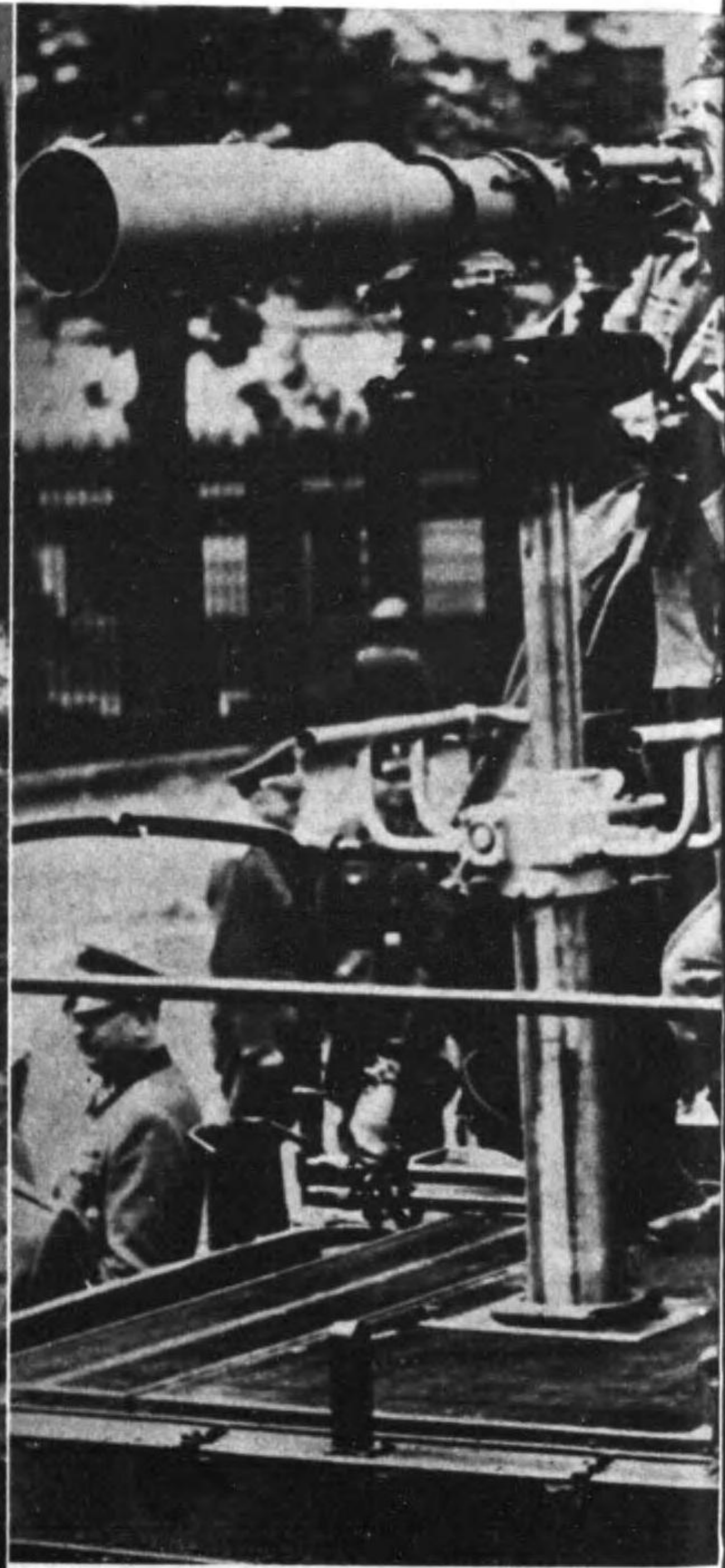


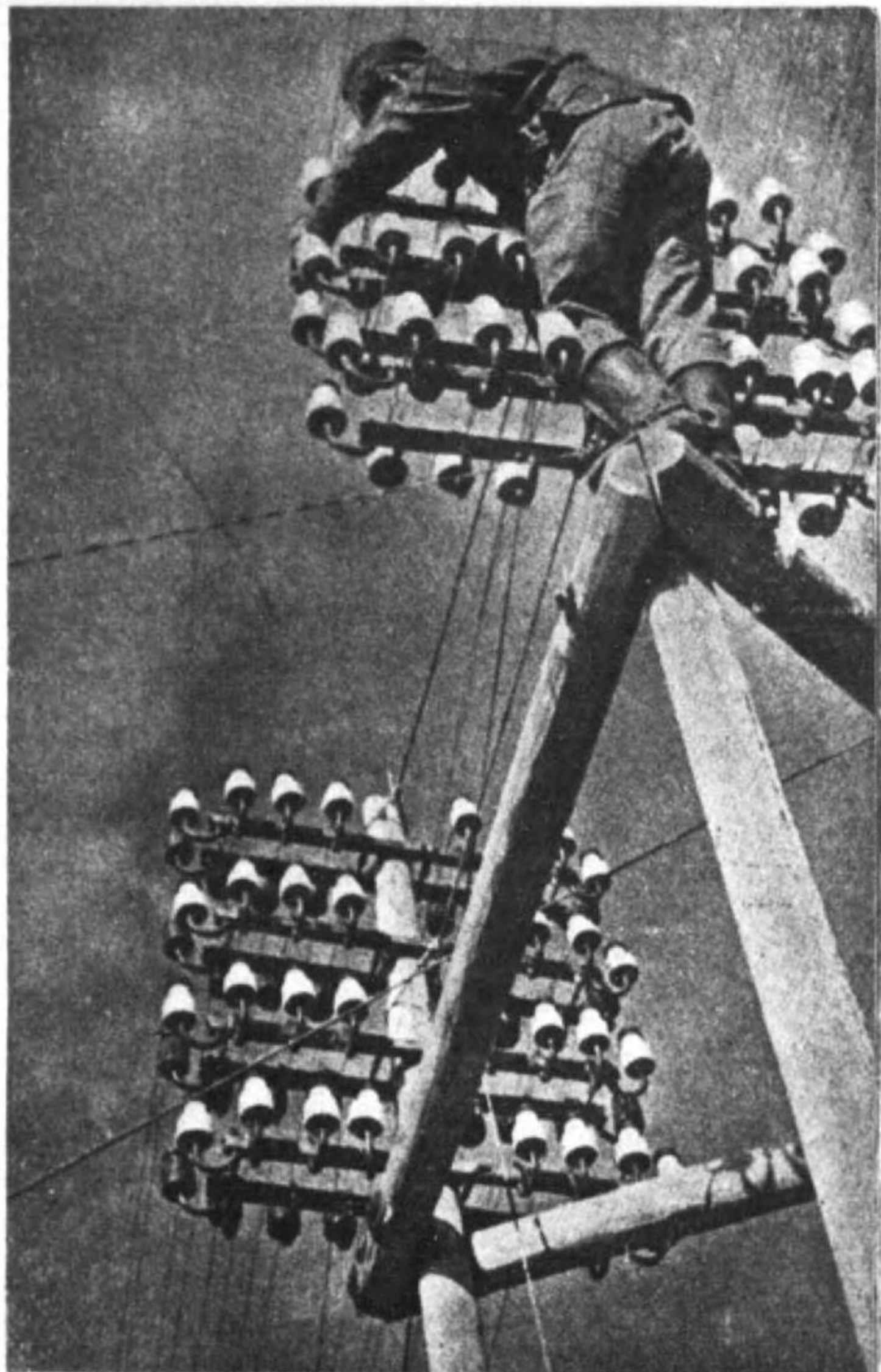
隊中伝宣 P.K

今次大戦に於ける戦争のすべての記録には、
 宣傳中隊（P・K）が活躍してゐる、これは軍
 と民間との協力によつて戦を記録するといふ
 のではなくて、平時文筆あるひは映畫の仕事に
 在つたものが應召して、規定の軍事教練をうけ
 一人前の兵隊として武器を使へる様になつて始
 めてP・Kの一員として各部隊に配屬されるも
 のであつて、日本に於ける軍屬といふ觀念とは
 大分違つたものである。

このP・Kに指令を與へるのは、國防軍の宣
 傳部であるが、戦間に於ては一般の兵士と等し
 く部隊の一員として戦ふのである。

例へば、ロンドン爆撃に於て、一機に五人の
 搭乗者があつて、後尾射手が文筆擔當のP・Kの一員だとすれば、行動中はあくまで戦間に従事しなければならぬ。そして歸つてか
 ら文筆擔當員としてP・Kに戻つて報告を認める譯である。しかしカメラマンの場合は戦間中もカメラを使用しなければならぬの
 であるからまた違つてくる。しかし武器は必ず携帯してゐなければならない。



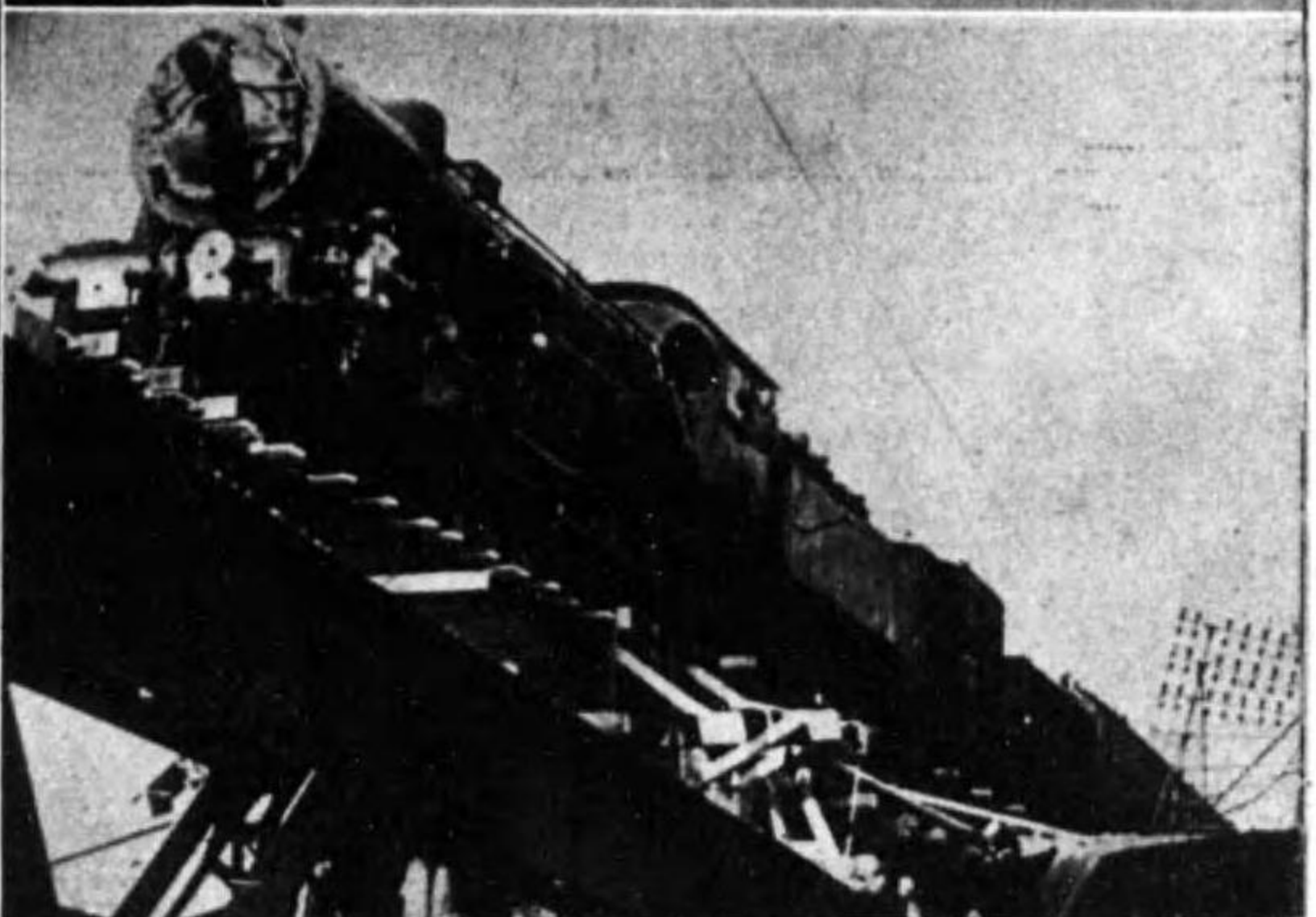
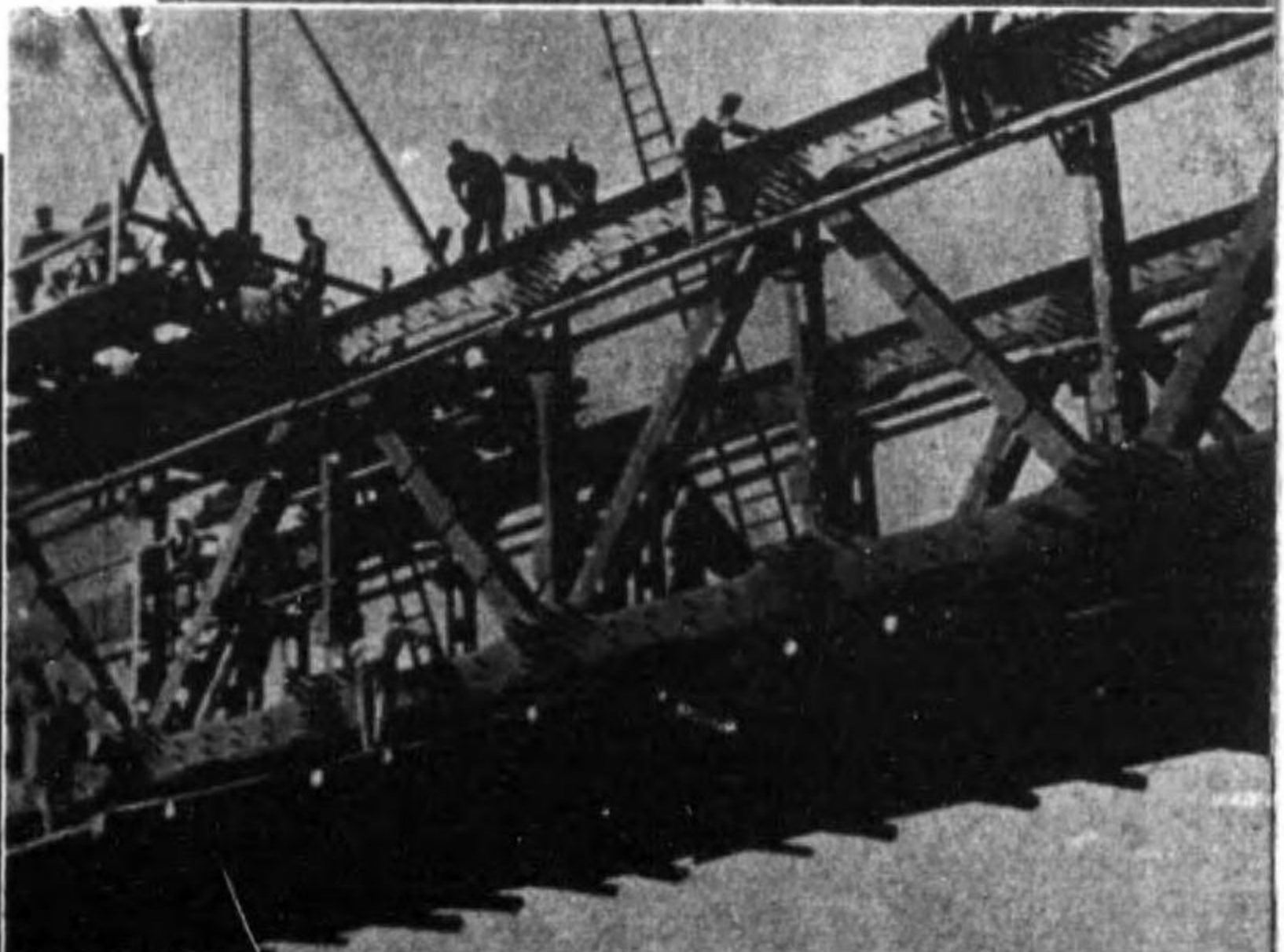


戦争と勤勞奉仕團

獨逸軍の打續く戦捷のうちに、後方連絡の位置を東西の方向から南北の方向へと大轉換することが必要となつた。後續部隊の補充には、主として貨物自動車とその任に當つて居る。司令部付兵站部長の指揮の下に北フランスに大規模な兵站基地が新設せられ數週間に亘つて、獨逸軍に屬する遠距離輸送自動車隊員によつて、夜を日についでなし遂げられた献身的な働きといふものは、正に戦史の一頁に記念さるべきものであらう。

一千五百万リットルの燃料と、六千万キログラムに上る彈藥と、二千二百萬キログラムの食糧が、輸送隊の人々の手によつて、とゞのへられた。之れを輸送するためには、實に蜿蜒三十萬キロメートル以上に亘る輸送自動車の列が続いたことになるのである。

獨逸國有鐵道の遠距離輸送隊、ナチス自動車、自動自轉車隊に屬するシュベール輸送隊、敵より鹵獲した自動車隊、トット輸送部隊、緊急技術救援隊、その他無数の勤勞奉仕部隊が協力一致、以つてよく獨逸軍の回滑なる作戦行動を可能ならしめた。
青年鐵道工兵隊は、占領地帯に於ける、鐵道や橋梁の修理復舊に努力した。





獨ウエーガン線突破 パリを目指して猛進

佛二百萬で反撃大激戦

【ニューヨーク特電五日】五百萬の軍隊を以てパリ及びルーアールを目標とする獨軍はソンム河を数ヶ所に於て渡河進撃し佛軍のウエーガン線ロンヌ・エーヌ河に沿つて進撃され佛軍の防壁を突破し豫定の如く南に向けて進撃中である。獨軍は目前の前進を以てパリに達するに至らざるは甚く遺憾である。

【ロンドン特電五日】獨軍は五日に於てウエーガン線を突破し、五里、モンヌ、ロンヌ、エーヌ河附近に於てウエーガン線附近に於てウエーガン線各戦線共神速な攻勢を講行中である。

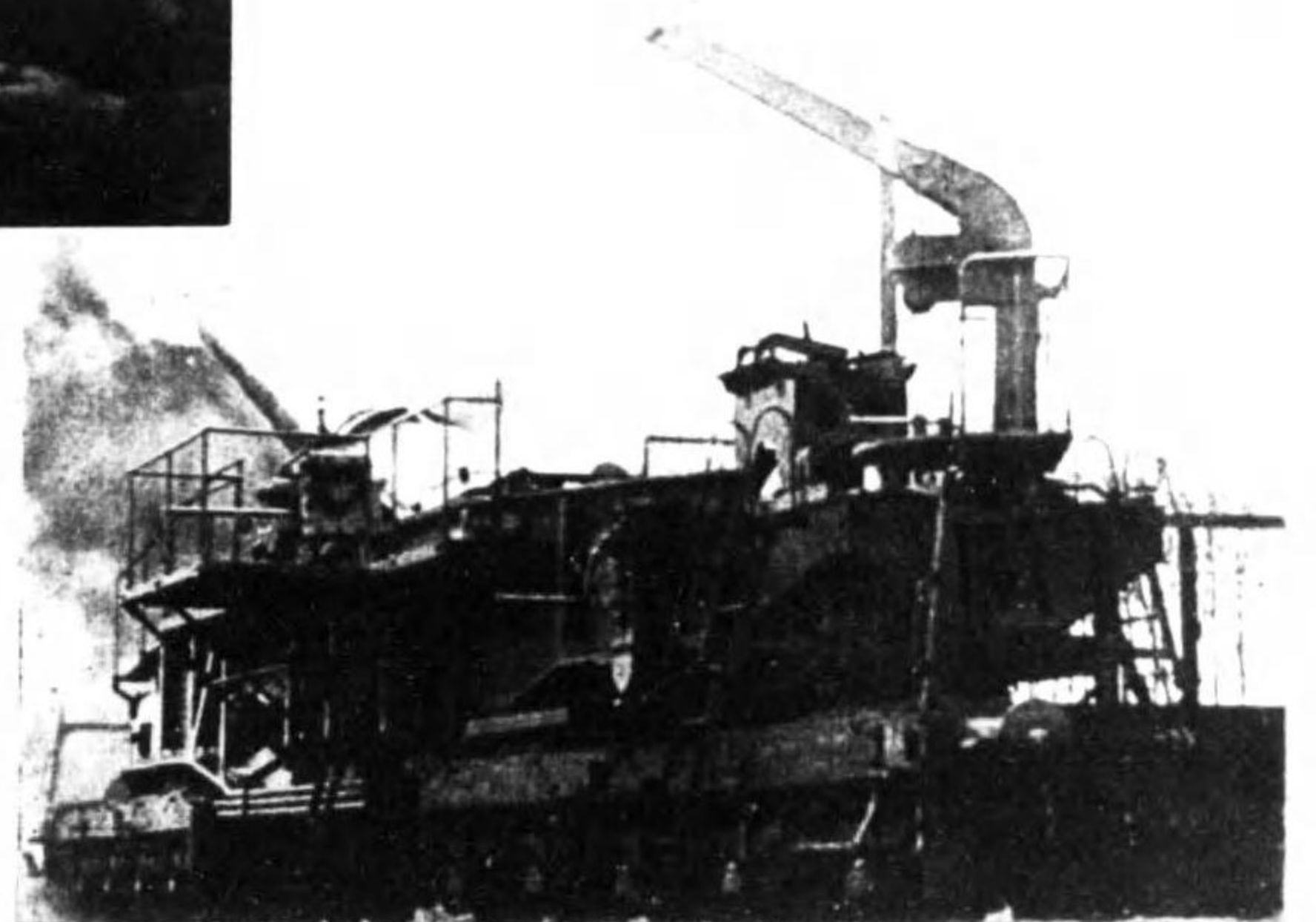
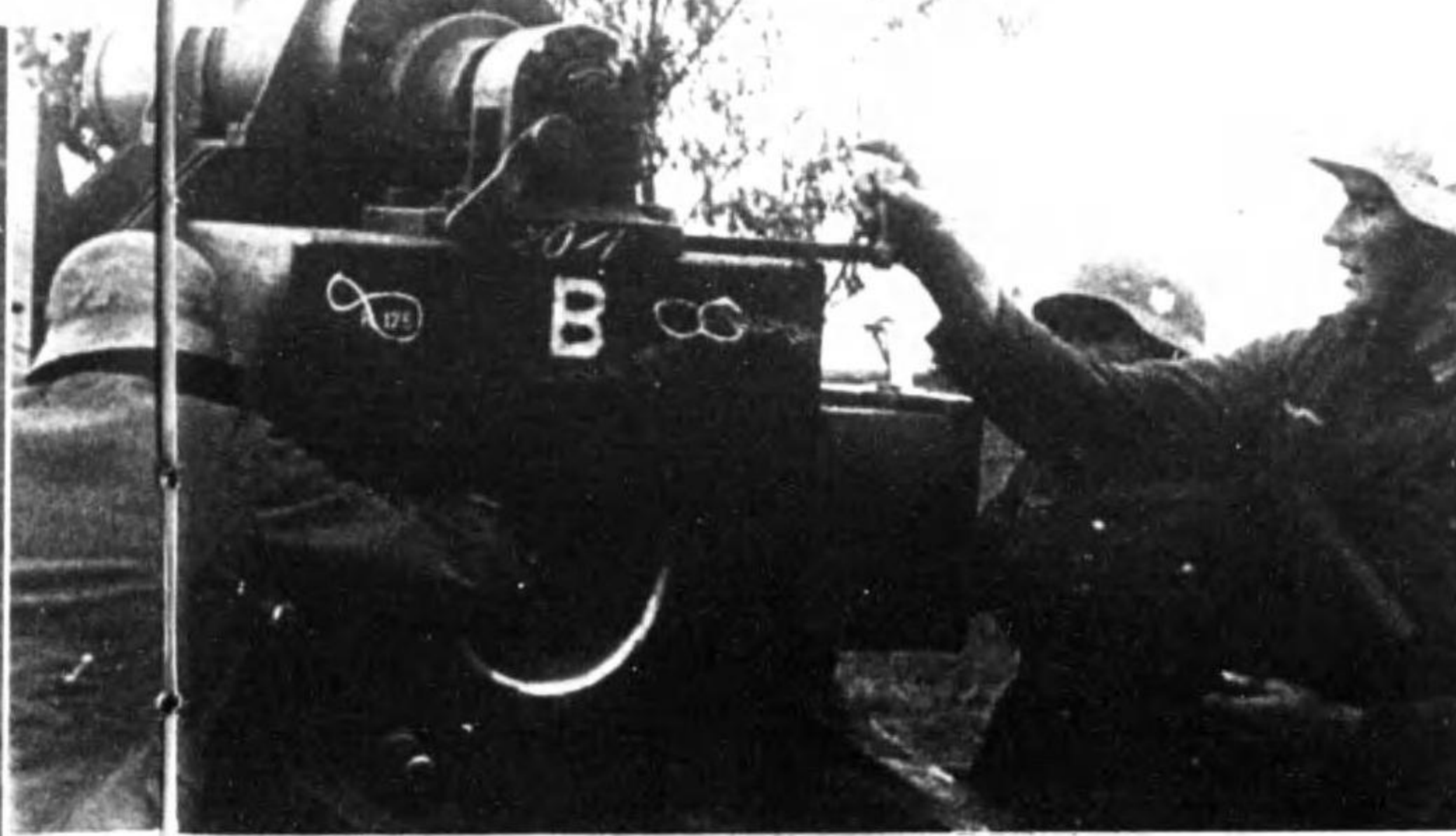
【ワシントン特電五日】獨軍は二百萬の大兵力を擧げて反撃目下全戦線に互つて大激戦が展開中である。獨軍の進撃目標はセーヌ河下流パリ地区にありと見られる。

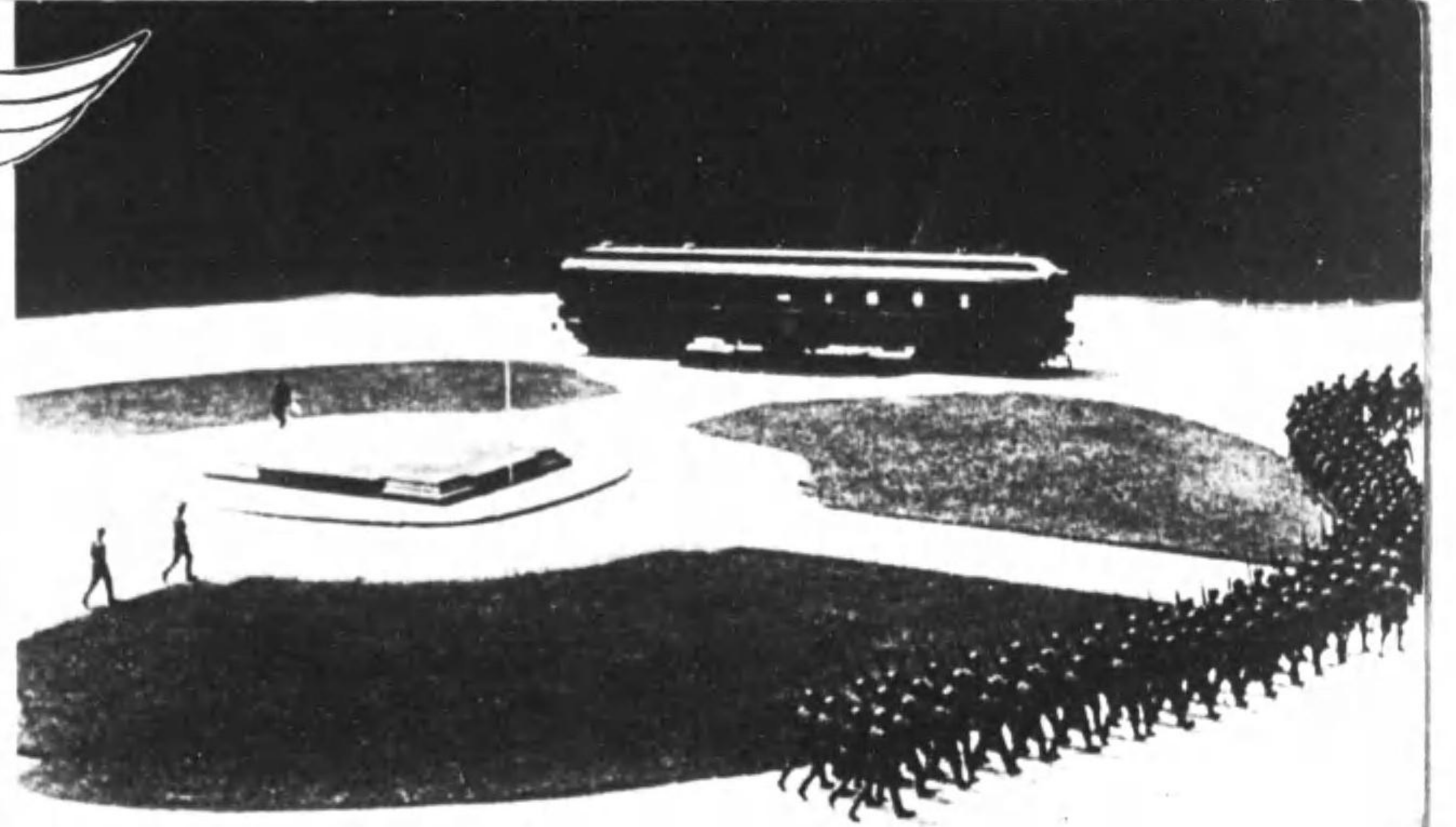
【ワシントン特電五日】獨軍は五日に於てウエーガン線を突破し、五里、モンヌ、ロンヌ、エーヌ河附近に於てウエーガン線附近に於てウエーガン線各戦線共神速な攻勢を講行中である。

ウエーガン線 五日に於て獨軍はウエーガン線を突破し、五里、モンヌ、ロンヌ、エーヌ河附近に於てウエーガン線附近に於てウエーガン線各戦線共神速な攻勢を講行中である。

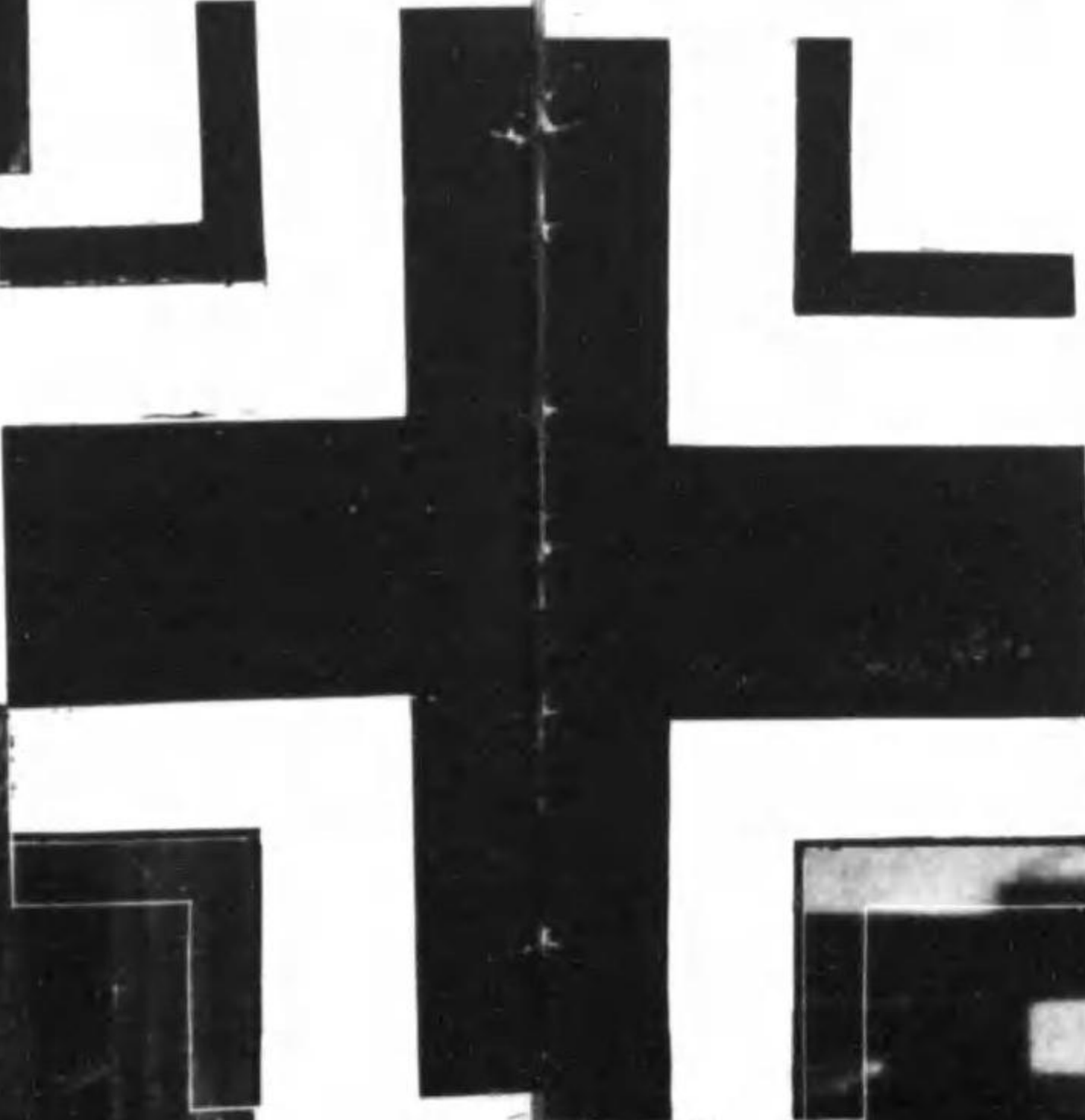
佛軍、陣地を固守 獨軍は五日に於てウエーガン線を突破し、五里、モンヌ、ロンヌ、エーヌ河附近に於てウエーガン線附近に於てウエーガン線各戦線共神速な攻勢を講行中である。







門防軍總司令部
六月二十二日
ロビンニエ森にて獨佛
休戦條約に調印はれた
り。
獨側の調印委員は、總
司令カール・ドニツ
の受任者たるカイテル將
軍之多擔當、佛側は佛政
府の受任者たるアンツイ
ゲ將軍之に當れり。
戰闘行為の停止は未だ
これに關聯せず。
休戦は、伊政府が獨司
令部に伊佛休戦條約締結
を通告後六時間にて、行
はるることなれり。



終



昭和十六年五月十四日印刷
昭和十六年五月十八日發行
●(定價八十錢)
編者 櫻木書房編輯部

發行者 東京市下谷區上野櫻木町二番地
二 方 久
發行所 東京市下谷區上野櫻木町二番地
櫻木書房
振替東京七九七一三番

東京市日本橋區兩國五十番地十號
日本綜合文化協會
印刷者 日出島武男